

B-20 糊つけ綿布の透気度、剛軟度、防しわ度と布地空隙の充填

川村短大 前島雅子

目的 糊つけ仕上により付与される消費性能は糊料の種類、濃度、処理条件によつて変化する。これらの関係を明らかにするため、三種の糊料による糊つけ綿布の透気度、剛軟度、防しわ度を布地空隙充填度とともに検討した。

方法 試布の作製 平織綿布をじゃがいもでんぷん (0.1, 0.2, 1.0, 2.5 (%))、CMC (0.05, 0.5, 2.5 (%))、PVA (0.2, 2.0, 10.0 (%)) 水溶液で10分間浸漬処理し、250 r.p.m. 10分間の遠心脱液後、自然乾燥し軽くアイロンかけした。

消費性能の測定 透気度：島津織物透気度試験機により 20°C、65% RH で測定した。
剛軟度：45°カンテレバー法により 20°C 付近の室温で測定した。
防しわ度：モンサント型防しわ度試験器により 同上の測定を行った。

空隙容積分布測定 水銀ポロシメーテにより 20°C 付近の室温で測定した。

結果 糊つけ布の透気度はでんぷん、CMC の場合は濃度とともに減ずるが、PVA の場合は高濃度側でかえって増加した。三種糊料とも濃度増加にしたがって剛軟度は増し、防しわ度は低下する。糊つけ布の残留空隙容積 ($1.2 \mu\text{m} < r < 13 \mu\text{m}$) は糊液高濃度側で少なくなる。PVA 10% ag. 処理布は特に剛軟度が大きく、糸内残留空隙容積が小さい。